

駿台中学校出前授業報告書

山梨がんアクション協議会

はじめに

がん対策推進基本計画では5年以内に下記の教育活動の実施を目標としている。

「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育すること。」(原文のまま)

また、山梨県がん対策推進条例では第十条で下記のことを明記している。

「県は、学校その他の教育機関及びがん対策関係者との連携を図りつつ、がんの予防及び早期発見の重要性等に関する児童及び生徒の理解と関心を深めるため、がんに関する学習活動を推進するものとする。」(原文のまま)

現在、小学校の学習指導要領に「生活習慣病」があるものの、がん教育とは言い難い取扱いしかできていない。

そこで、各学年に応じたがん教育を、民間の立場で、できるところから進めることとした。

実施概要

◆実施日時 2013年2月16日(土) 9:45～

◆実施時間 50分授業

◆目指すところ

1	私たちの体験を通じ、健康と命の大切さを感じてもらう
2	がんを通じ、自らの健康を、自ら管理することの意味を考えてもらう
3	がんとがん患者に対する正しい認識を持つきっかけを見つけてもらう
4	事前、及び事後アンケートを行い、意識の違いをみる

◆参加者 事前アンケート:128名 事後アンケート:121名

◆実施形式

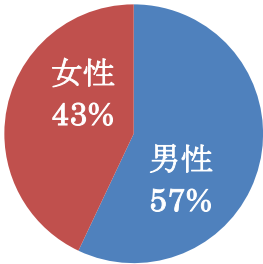
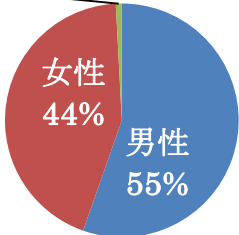
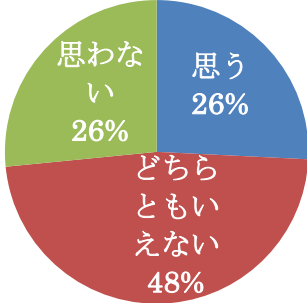
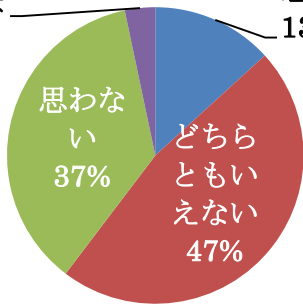
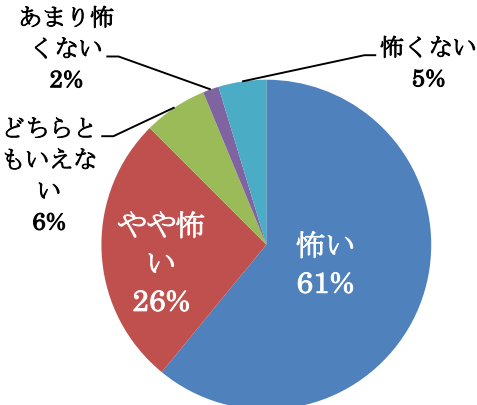
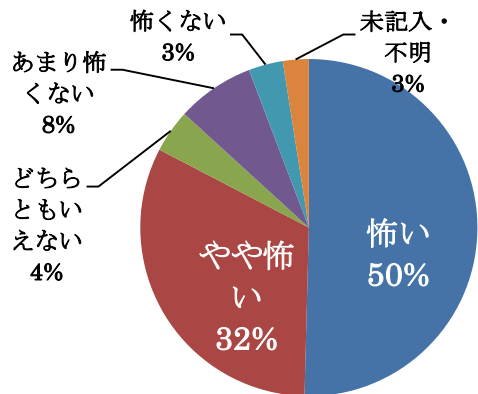
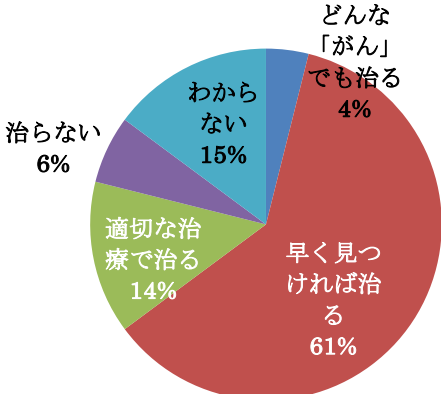
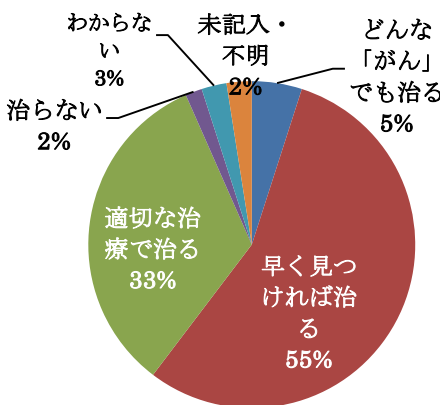
- ・オリジナル資料とパワーポイント(PPT)を使用しながらの講義
- ・授業前後に同じ項目でのアンケートを行い、意識の違いをみる
- ・自由記述による感想から授業の成果を測り、より良い内容に進化させる(※別添資料1参照)

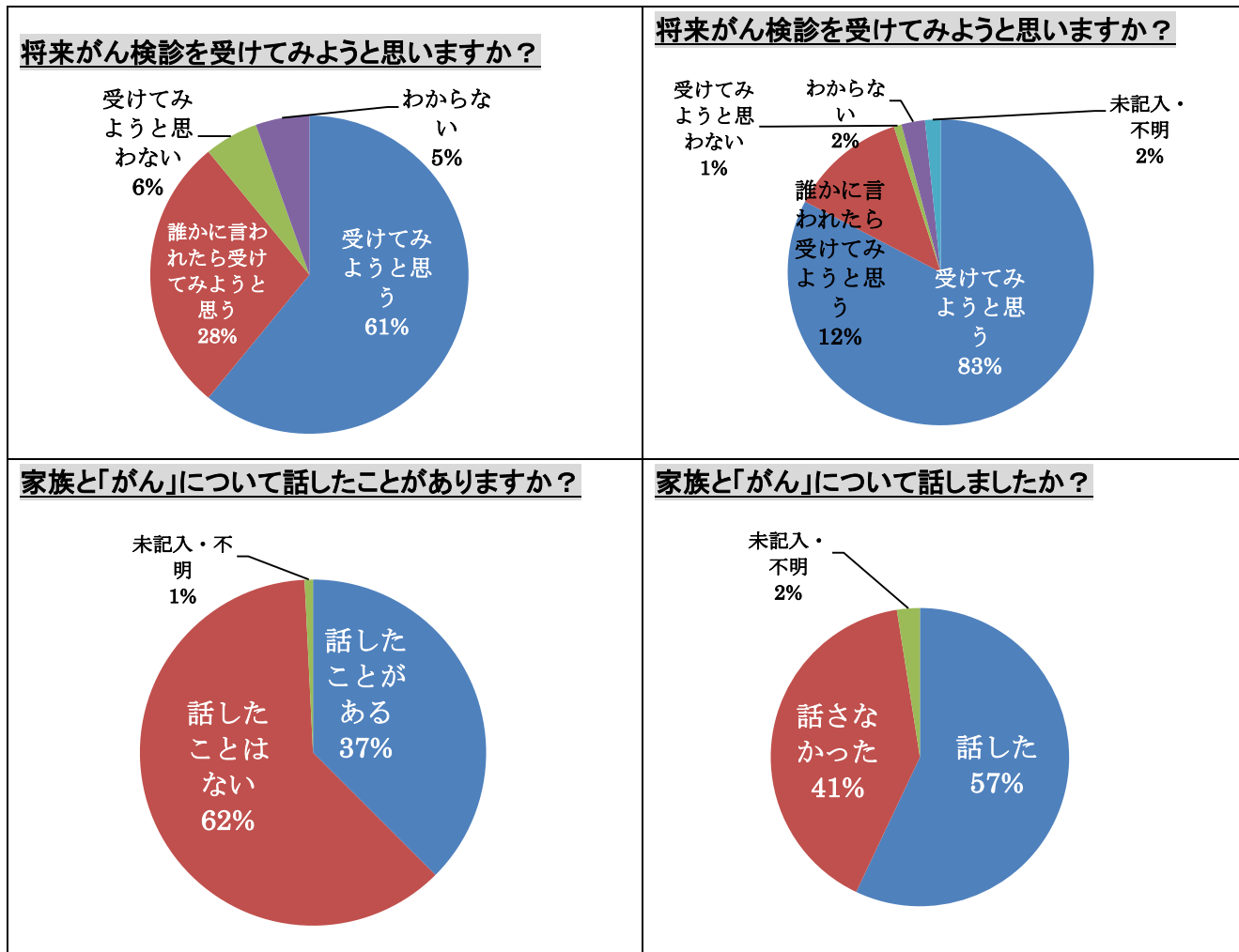
成果

アンケートより、下記の効果が見られた。

- 1、がんに対する関心が芽生え、自ら調べることにより、より深い関心を持つ
- 2、がん患者に対する偏見を持たない世代として成長していく
- 3、将来的にがん予防、早期発見を自ら行う世代の育成につながる
- 4、家族に対するがん検診等の普及効果が期待できる

＜事前・事後アンケートの結果＞

◆事前◆	◆事後◆
<p>あなたについて教えてください</p> <p>性別</p>  <p>女性 43% 男性 57%</p>	<p>あなたについて教えてください</p> <p>性別</p>  <p>未記入 1% 女性 44% 男性 55%</p>
<p>がん=死だと思えますか？</p>  <p>思う 26% どちらともいえない 48% 思わない 26%</p>	<p>がん=死だと思えますか？</p>  <p>思う 13% どちらともいえない 47% 思わない 37% 未記入・不明 3%</p>
<p>がんは怖いと思えますか？</p>  <p>怖い 61% やや怖い 26% どちらともいえない 6% 怖くない 5% あまり怖くない 2%</p>	<p>がんは怖いと思えますか？</p>  <p>怖い 50% やや怖い 32% どちらともいえない 4% あまり怖くない 8% 怖くない 3% 未記入・不明 3%</p>
<p>がんは治ると思えますか？</p>  <p>早く見つければ治る 61% わからない 15% 適切な治療で治る 14% 治らない 6% どんな「がん」でも治る 4%</p>	<p>がんは治ると思えますか？</p>  <p>早く見つければ治る 55% 適切な治療で治る 33% 治らない 2% わからない 3% 未記入・不明 2% どんな「がん」でも治る 5%</p>



将来性～今後のビジョン～

がんに関する出前授業のアンケート集計結果より、下記のことが数字の上で明らかになった。

- ✓ 授業前では「がん＝死」とは思わないが 26%だったが、授業後には 37%に増えた
- ✓ 「がんは治ると思いますか」の問いでは「適切な治療で治る」と答えた生徒が 14%から 33%に増え、「わからない」と答えた生徒が 15%から 3%に減った。
- ✓ 「将来がん検診を受けてみようと思いますか」の問いでは、「受けてみようと思う」が 61%から 83%に増えている。
- ✓ 「がんについて家族と話した」が 37%から 57%となり、確実に家族とがんについて話した生徒が増えている。

これらのことから、生徒自身が「がん」について考える機会になったことがうかがえる。また、将来、おぼろげながらもがん検診を受けることのメリットを感じ取ったことも考えられる。同時に、家族と「がん」について話した生徒が増えていることから、現実的にがんの罹患が高まる親世代への波及効果も期待できる。「がん＝死」と思うかどうかの問いでは授業の後では「思う」と答えた生徒が減り、「思わない」と答えた生徒が増えていることから、がんに対する偏見をなくすことにもつながった授業だと思われる。



山梨がんアクション協議会
 〒400-0025
 山梨県甲府市朝日 2-16-19
 TEL/FAX 055-252-7687

『がんに負けない』ってどういうことか？
 『自分』には何ができるか？

私の中でがんとは、とても恐ろしい病気とい
 らイイメージでした。『余命一カ月の花嫁』
 というDVDを観て、がんへの恐怖が高まり
 ました。日に日に悪化していく姿を見ていら
 れませんでしたが、しかし、この構演を聞いて
 考え方やがんの見方が変わりました。まあ、
 がんはワクチンの予防接種で予防できるとい
 うことで、私は、実際に子宮けいがんの予
 防接種をしましたが、本当に注射なんか受け
 て予防できるわけがないと思っ、てました。そ
 の考えは全くもってちがっていました。ワク
 チンを打つと、がんになる確率がすくなく下
 るそうです。それを聞いて、私は今の医療は
 すぐいと改めて実感しました。次に、早期発
 見で手術をしたらかなが治る確率が高くなる

20

10

10

20

番号

という事です。だから、私はがん検しんを
 受けたいと思いました。
 今、私に出来ることは構演で聞いたことを
 色んな人へ話して、がんという病気の怖さも
 知、たうえで、たくさんの方が助かってほし
 いと思いました。この構演を通して、もっと
 がんをくわしく知ろうと思いました。

20

10

10

20